

【「大学のゴルフ授業」の充実を目指した産学連携調印式並びに記者発表】



日時：平成 28 年 6 月 27 日(月) 15:00～16:15
場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 4P 会議室

鈴木大地スポーツ庁長官を来賓にお迎えし、「公益社団法人全国大学体育連合」(安西会長)と「公益社団法人日本プロゴルフ協会」(倉本会長)ならびに、ゴルフ産業団体で構成される「ゴルフ市場活性化委員会」(馬場委員長)は、連携協定の締結調印と報道関係者約30名に対し記者発表を行った。

◆鈴木大地 (スポーツ庁長官)



ゴルフは生涯スポーツであり、社会性の高いスポーツであると考えている。政府はスポーツ産業の成長性に着目しており、現在のスポーツ市場規模 5.5 兆円を 2020 年に 10 兆円、2025 年に 15 兆円との目標を設定し、実現に向けて取り組んでいる。現状の「週一スポーツ実施率 40%」を 5 年後に「65%」とする目標にも取り組んでいく。

3 団体の連携が高い目標をクリアできる一助になるものと考えている。また、ゴルフはリオ五輪で 112 年振り正式種目に復帰し、東京五輪でも採用されますので、若者に興味を持ってもらえるものと期待しています。

ゴルフは難しさが 1 つの魅力であり、コツコツやる日本人の特性にもあっていると思う。生涯スポーツの代表格と成り得るものだと思っているので、3 団体の連携をサポートして参ります。

◆安西祐一郎 (公益社団法人全国大学体育連合 会長)



大体連は、「大学体育の授業」「大学の課外スポーツ」「大学地域スポーツイベント」など手広く実施しており、スポーツ体育担当の先生及び約 300 大学が加盟している伝統ある組織です。

約 580 のゴルフ授業の実情は、ゴルフ専門の先生が指導していない、コースラウンドも実施されていない、用具も整っていない状況であります。この度の連携は、数万人～10 万人の受講大学生に充実した機会を与えることになり、将来ゴルフ場に足を運び、社会で活躍する学生の出発点になると考えています。

また、マナー等について、若者がしっかりした態度・姿勢を習得し、社会に出て活躍してほしい。そのためにも、2 団体に「大体連」のゴルフ授業にご支援いただきたい。

◆倉本昌弘 (公益社団法人日本プロゴルフ協会 会長)



会長就任後、大学のゴルフ授業充実には強い関心を持っていた。「ゴルフの正しい普及」「未経験者へのアプローチ」が PGA の命題であり、このような連携で大学授業に携わることが出来ることは、PGA の目的に沿った活動と思っている。GMAC 側の施設と PGA 側の人材で、「大学のゴルフ授業」をサポートし、ゴルフの普及、マナー啓発等で貢献出来ると思う。

◆馬場宏之 (ゴルフ市場活性化委員会 委員長)



GMAC は「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」をスローガンとし活動しており、特に 20 歳代・30 歳代にゴルフを始めて頂くことに重点を置いている。「大学のゴルフ授業」へのサポートは、「はじめよう」にふさわしいものと思う。主役は授業を受ける大学生、脇を固めるのが大学の先生、PGA のティーチングプロ、それを GMAC の練習場、ゴルフ場、ゴルフ用品がサポートし、ゴルフ普及の良い舞台が整ったと考えています。「大学のゴルフ授業」から若いゴルファーが誕生し、10 年後、20 年後、ゴルフ界を支えて下さると期待しています。

【具体的取組み事例の発表】

◆北徹朗 武蔵野美術大学准教授と山口さん(武蔵野美術大学・4年生、女性)

子供の頃は高価なスポーツという認識であったが、大学でゴルフ授業を体験し、「G ちゃれ」コースデビューしてからは、学内施設では経験できない楽しさがあり、もっと飛ばしたい、アプローチが上手になりたいと更に向上心が湧いてきました。しかし、未だにゴルフを共にできる友人が少ないため、もっと気軽にゴルフが楽しめるような機会があれば良いなと思っていました。ゴルフ業界の方々がお力添えして頂くことでこれらの機会が増えることに大変喜ばしく思っております。

◆井上建夫 (公益社団法人日本プロゴルフ協会 副会長)・武蔵野美術大学で特別講師

6/7 に武蔵野美術大学で特別講師として体育ゴルフの授業を行ってまいりました。皆さん真剣に取り組んでいて、全員をコースに連れていきたいと感じたと同時に新しいゴルファーが増えていくとの手応えを得ました。

